

14 日本人に韓国をもっと好きになってもらうためには

～ お菓子を通じてチョアになろう ～

What can be done to make Japanese people like Korea more
(Let's come to "Joha" through sweets.)

要旨 私たちは、韓国のお菓子「ホットク」を使って日本人の韓国に対しての興味を向上させるために、日本人のお菓子の好みアンケートを行ったり、ホットクの食べ比べを行ったりした。

Abstract We conducted a survey on Japanese people's snack preferences and held a taste comparison event with "Hotteok," a traditional Korean sweet, in order to increase Japanese interest in Korean culture.

1 研究背景と研究目的・意義

1.1 研究背景

現代の日本と韓国の関係(日韓関係)は 4、5 年前と比較すると良くなった。しかし韓国に対して悪い印象を持っていたり、興味がなかったりする人はまだたくさんいると考えられる。韓国が大好きな私たちは、隣国である韓国とより良い国際関係を築いていくことが必要だと考え、韓国の良さをより多くの人に知ってもらうための探究活動を行っていくことにした。

日韓関係について知るために、インターネットで 2019 年と現在(当時 2024)の日韓関係について、日本人と韓国人それぞれの世論調査を調べた。2019 年の調査の日本人が韓国に抱いている印象は、「良い」と答えた人が 20%、「悪い」と答えた人が 49.9%、「どちらとも言えない」と答えた人が 29.8%だった。それに対し韓国人は、日本の印象を「良い」と答えた人が 31.7%、「悪い」と答えた人が 49.9%、「どちらとも言えない」と答えた人が 18.2%だった。現在(2024)の調査の日本人の印象では、「非常に良い」と答えた人が 3%、「どちらかといえば良い」と答えた人が 47%、「どちらかといえば悪い」と答えた人が 37%、「非常に悪い」と答えた人が 7%だった。それに対し韓国人は、「非常に良い」と答えた人が 2%、「どちらかといえば良い」と答えた人が 40%、「どちらかといえば悪い」と答えた人が 37%、「非常に悪い」と答えた人が 15%であった。この 2 つの調査を比較すると、日本人と韓国人どちらも 2019 年から 2024 年にかけて日韓関係について良い印象を抱いている人が増えていると分かった。

日韓関係をより良いものとするために、私たちは食文化を通じた交流を考え、なかでもお菓子に着目して探究活動を始めた。

1.2 リサーチクエスチョンと先行研究・事例

日本人と韓国人がお互いの国のお菓子を好きになるためには、まず両国人のお菓子の好みを知ることが必要だと考えた。そこで私たちは「日本人が好きな韓国のお菓子の共通点と韓国人が好きな日本のお菓子の共通点から、お菓子に何を特に求めているのか(食感?味の濃さ?)」というリサーチクエスチョンをたてた。

『韓国食文化小考』(中村, 2000)から、韓国人のお菓子の好みについて明らかになった。韓国の伝統お菓子は甘いものが多いが、韓国人は甘いお菓子を好まず、スナック系のしょっぱいお菓子を普段食べて

おり、それは、韓国人の味の好みはキムチなどの辛味であり、ケーキ・プリンなどの甘いものを好まないからだという。

『和菓子の嗜好性および喫食状況に関する研究』(村上, 2009)から、日本人のお菓子の好みについて明らかになった。大学生男女を対象に嗜好性・喫食頻度が高いお菓子について調査され、嗜好性で最も高いお菓子の項目は男女ともに「洋菓子」だった。また、喫食頻度が最も高いお菓子の項目では男子は「スナック菓子」女子は「洋菓子」で、男子の二番目に高い項目では「洋菓子」であった。この研究から日本大学生は洋菓子など甘いお菓子を好むことがわかった。

1.3 研究の目的・意義

上記二つの先行研究から、今の韓国・日本の高校生はどのようなお菓子を好むのか、また両国の高校生に人気なお菓子の共通点はあるのか、お互いの国のお菓子をどのように受け取っているのかを調べていくことにした。

今の世界はグローバル化が進み、様々な国の人と会う機会が増えている。見識を広めたり、人と人を通して国の間にも良好な関係を築くためには自ら興味を持つことが大切である。そこで、本研究の意義は、お互いの国のお菓子の興味を持ってもらい、お菓子からお互いの国を好きになってもらうことで、今の高校生が社会で活躍する年代になったときに、よりよい日韓関係が期待できる。また本研究から他国の文化を知ることに関心を持つことで、日韓関係だけでなく、よりよい国際関係が期待できるようになることだと考えている。

1.4 仮説とその根拠

上記の仮説より私たちは「今の韓国人の高校生もしょっぱい系のお菓子が好きで、日本人の高校生(半田高校現3年生)も甘い系のお菓子が好きなのではないか。」という仮説を立てた。

韓国人の高校生のお菓子の好みを知るために、「Hello Talk」というアプリを用いて韓国人高校生と交流を試みたが、住んでいる場所を聞いてくるような危険な人がいたため断念した。

また夏休みに名古屋で行われた、韓国人と日本人の交流会に参加した。そこでは会に参加していた韓国人の好きなお菓子を知ることができたが、韓国人高校生が参加していなかったため、私たちが求めていた結果を得ることはできなかった。

以上より、韓国人高校生のお菓子の調査は難しいと考え、日本人の高校生のお菓子の好みについて調べていくことにした。

2 研究方法1 半田高校3年生のお菓子の嗜好調査

2.1 研究の目的とリサーチクエスト・仮説との関係

先述の先行研究では、お菓子を①和菓子 ②洋菓子 ③スナック菓子 ④せんべい・あられ ⑤グミ・ガム・飴の5項目に分けて「どのお菓子が1番好きか」という質問を男女別に調べていた。その結果、女性も男性もどちらも洋菓子が1番好きであるということが分かった。

この結果が正しいのかを調べるため、半田高校3年生を対象に好きなお菓子の嗜好調査を行った。

2.2 研究と分析方法

先行研究の「どのお菓子が1番好きか」に「2番目に好きなお菓子」、「3番目に好きなお菓子」という質問を加えた。また、1番目に選ばれたお菓子には1票につき3点、2番目には2点、3番目には1点と点数をつけて優劣を見分けやすいようにした。

2.3 結果

和菓子: 57点 洋菓子: 106点 スナック菓子: 57点

せんべい、あられ: 14点 グミ、ガム、飴: 44点

上記から、半田高校3年生に最も好まれているお菓子は洋菓子、続いて和菓子とスナック菓子が好ま

れていることが分かった。



2.4 考察

調査で得られた上位3位のお菓子はなぜ人気なのかを考えた。

その結果、洋菓子と和菓子には単体での満足感があるところが共通点として挙げられ、スナック菓子には手軽に食べられるという利点があった。

以上より、日本人には満足感があり、かつ手軽に食べられるお菓子が好まれるのではないかと考察した。

3 研究方法2 ホットクの食べ比べ

3.1 研究の目的とリサーチクエスト・仮説との関係

研究1の考察から、日本人には満足感があり手軽に食べられるお菓子が好まれると仮定して、その特徴に当てはまる韓国の伝統的なスイーツを調べ、ホットクというお菓子を扱うことに決めた。

ホットクとは韓国の冬の屋台でみられる伝統的なスイーツで、主に小麦粉やもち米を使用する。また特別な日には縁起の良い食べ物とされ、親子で一緒につくことでコミュニケーションを高める料理である。韓国では屋台での飲食文化が盛んであり、特に明洞・釜山に多く出店している。その起源は1950年代に遡り、朝鮮戦争後の経済困難の中で、手頃な価格で簡単に食べられるものが必要になったことから始まったようだ。60~70年代では工業化・都市化により屋台の数が増え、今では屋台があることで観光地ともなっている。

中でも明洞は北緯約37度に位置しており、日本で言う福島県双葉町と同じぐらいであった。しかし、シベリアやモンゴルなどの大陸から寒気が直接流れ込んでくるため、対馬海流という暖流で寒気が暖められてからやってくる日本とは段違いに冬は冷え込み、-20℃を観測する場合もある。そのため、屋台で見られる食べ物にはおでんやトッポギといった体を温めるものが多く、ホットクもその1つで昔から韓国人々に愛されている。

3.2 研究と分析方法

業務スーパーで購入した韓国の冷凍ホットクと、ホットケーキミックスで作った手作りのホットクを半田高校生に食べ比べてもらい、質問に答えてもらった。1回目の食べ比べでは、冷凍のホットクとあんこチーズのホットク、2回目の食べ比べでは、冷凍のホットクとシナモンナッツ味の手作りホットクを食べ比べてもらった。以下冷凍のホットクをA、手作りのホットクをBとする。(下の画像は左がAで右がB)



3.3 結果

1回目では9人に食べ比べてもらい、以下の質問に答えてもらった。

Q1「食感はABでどのくらい似ているか」少し違う:1人 違う:8人 と回答した。

Q2「どちらのホットクが好きか」 A:4人 B:5人

Q3「家でもBのホットクを作りたいか」 9人全員が作りたいと答えた。

2回目では10人に食べ比べてもらった。1回目の反省をふまえて、より既製品に近づけられるよう味はシナモンナッツ味、外側をサクサクにできるようにしっかり焼いた。また、アンケートの質問の数を増やした。

Q1-1「食感はABでどのくらい似ているか」 同じ:0人 ほぼ同じ:3人 少し違う:4人 違う:3人

Q1-2「味はどのくらい似ているか」 同じ:0人 ほぼ同じ:3人 少し違う:2人 違う:5人

Q1-3「匂いはどのくらい似ているか」 同じ:1人 ほぼ同じ:3人 少し違う:4人 違う:2人

Q2[どちらのホットクが好きか] A:2人 B:8人

Q3「家でもBのホットクを作りたいか」

Q4「前回の手作りホットクと比べて、今回のほうが韓国のホットクに近づいたと思うか」

思う:9人 思わない:1人

Q5「前回と今回のホットク食べ比べを通して、韓国について興味を持ったか。また、より好きになったか」では10人中9人が好きになったという前向きな意見だった。

3.4 考察

ホットケーキミックスのホットクは、一般の家庭にある材料で、約30分という短い時間で作ることができた。1回目と2回目の食べ比べの結果から、食感・味・匂いともにAに近づいたという回答が増えた。このことから、家でも韓国のホットクに近いホットクを作ることができることが分かった。また、この研究を通して、多くの人に韓国に興味を持ってもらうことができた。

4 結論と今後の展望

4.1 結論

研究1より日本人は満足感があり、手軽に食べられるお菓子を好む傾向があることがわかった。研究2より、日本人の多くの家庭にあるホットケーキミックスで韓国のホットクにちかいホットクを作ることができると分かった。

4.2 今後の展望

日本人が満足感を感じ、手軽に食べられるお菓子を好む理由として、日本人は仕事や学業の時間の影響でゆっくりお菓子を食べる時間や余裕がないのではないかと考えた。このことがお菓子の嗜好性と関係があるのかを調査するためにも、他国で好まれるお菓子の傾向を調べたり、日本人がお菓子を食べる際の所要時間や時間帯をアンケートで調査したりすると、日本人により好まれるお菓子の条件がわかり、より好まれる韓国のお菓子で調査できるかもしれない。

成果発表会を通して、より多くの人に韓国への興味を持ってもらうことができた。これからもお互いのお菓子や食文化が広がることによって、よりよい日韓関係が築かれるだろう。

5 謝辞

お菓子の嗜好調査アンケートやホットクの食べ比べに参加し、私たちの課題研究に協力してくださったみなさん、ありがとうございました。

6 引用文献・参考文献

- ・「日韓関係「良い」は13年ぶり50%台に、韓国でも2年連続の4割超え…日韓共同世論調査」.(2024.6.11). 読売新聞.

先行研究

- ・中村修也（2000.3）.「韓国食文化小考ーお茶とお菓子」.『生活科学研究/文教大学生生活科学研究所』22号.155-168.
- ・村上陽子,角屋育,鈴木郁美（2009） 「和菓子の嗜好性および喫食状況に関する研究」.
『一般社団法人日本家政学会研究発表要旨集』,610,282-282.

ホットク

- ・マカロニメイト（2022）.「HMで韓国スイーツ♪あんこチーズホットク」
<https://macaro-ni.jp/88612> 2025年1月9日
- ・デリッシュキッチン（2024）「韓国スイーツ「ホットク」はどんな食べ物？ 特徴や手作りレシピもご紹介」
<https://delishkitchen.tv/articles/2406#contents10> 2025年1月9日

韓国の気候

- ・大和ハウス工業（2021）「世界の環境共生住宅|サステナビリティ-大和ハウス工業」
<https://www.daiwahouse.co.jp/sustainable/eco/column/world/seoul.html> 2025年 6月4日